

訪日旅行報告書

ルシー・オーブラック高校
アレクサンドル・グラボ

I. はじめに

今回の訪日旅行は私にとって大きなチャンスでした。まずこれは私にとって初めての訪日で、これを機に豊かな文化や歴史を持つ国を知ることができたからです。ずっと日本に憧れてきましたし、今でもそうです。ただ言いたいことは、日本にもう一度行きたい、ということ！ここで出会った素晴らしい人々を忘れることはないでしょう。彼らの優しさと思いやり、そしてあらゆるご配慮に感謝します。有難うございました！

II. 日本：特別な歴史、文化、人々……

日本について知っていたことといえば、技術面でとても進歩している一方で伝統を大切にしている国、ということぐらいでした。また私にとっては漫画も日本を知るための手段でした。今回の旅行では例えば最先端技術など既存の知識を改めて確認すると同時に、歴史や自然災害の多さなど新しい情報を得ることができました。また時間の正確さや人を敬う心、習慣などに関する知識も得ましたが、何より世界を別の観点から眺めることを学べたことが大きかったです。

旅行中に出会った多くの人と自分の考えや見解について意見を交わしましたが、中でも印象深かったのは高校生たちやホストフレンドとの交流でした。言葉の壁は克服できる問題でした。

今回は寺院や博物館、見事な庭園、学校、広島や東京などの都市を訪れ、茶の湯や文楽など日本の伝統に触れながら日本人の生活を垣間見ることができました。旅行中の何気ない出来事について話していると、それだけで楽しい思い出が蘇ってきます！



III. 気候変動は国境なき問題……

気候変動に強い関心を持っていた私たちが全員一致でテーマに選んだのは環境問題です。多くの庭園などにもみられるように、日本文化において自然が大きな意味を持っているということは知っていました。また日本は自然災害に見舞われることの多い国でもあります。

第一印象としては質問した生徒の多くが気候変動の影響をさほど切実に感じていないように見受けられましたが、その一方で気候温暖化を抑えるため多くのプロジェクトが実施されていることを確認しました。エコロジーに配慮した「エコスクール」の建設もその一例です。この学校では例えば太陽光パネルによる発電、熱損失を低減できる屋上緑化、野菜や果物を収穫できる植物の栽培など、多くのイノベーションによりカーボンニュートラルを達成しています。これらに加え、子供の目が届く高さに貼った簡単な掲示物を通じて「環境とは何か」「どのように環境を守るのか」といったことを学ばせています。太陽光パネルにより節約できたエネルギー量を教えてくれるフラットパネルディスプレイなどもありました。とにかく最も大切なことは、子供たちにメッセージを伝えることです。このような学校は少数ですが、将来的にはこうした施設が大多数を占めるようになり、生活習慣を変えていくことが望まれます。



国内の移動には新幹線（日本のTGV）や公共交通機関を利用しました。フランスと大きく変わりませんが、こちらはゆったりしていて本数も多いです。公共交通機関の利用率は高く、人口密度の高い各都市の間をスピーディーに連絡しています。ここにも環境にやさしい交通手段が見られますが、一部の都市では公共交通機関（地下鉄）の本数が少なく、利用しにくいこともあるようです。

旅行期間中を通じて、街中が非常に清潔でゴミの分別が厳しく指定されていることが分かりました。フランスとは異なり、あらゆる種類の廃棄物を分別して入れるための容器が多数置かれています。その結果、再利用できないゴミがここ日本では明らかに少なくなっているのです。

最後にエコロジーと環境保全における重要なポイントである、日本の産業について触れておきたいと思います。日本は例えば、万年筆のブランド「パイロット」をはじめとする産業が発展した豊かな国です。すなわち、日本はフランスと異なり、産業が多様化しており、このため国内需要を賄うことが可能で、その結果、輸入量が減り、輸送が回避されてカーボンフットプリントを大幅に低減することが可能になっています。愛国心豊かな日本人は国産品の消費にも熱心で、これもカーボンフットプリント低減を後押ししています。一方、日本では例えば果物なども個包装されるなど何でもかんでも包装するという問題があり、これは大きな環境破壊につながる問題になっています。

結論として、日本には長期的な視野に立った環境保全と気候温暖化対策に向けた基礎が整っているように思われますが、例えば包装などについて生活習慣を変えるとともに、子供たちの関心喚起を継続する必要があることを指摘しておきたいと思えます。



ありがとうございました！